



写真右から平野さん、遠藤さん、甲田さん

育を行っています。
平野「今回、大会で優勝したことで、子どもにとって憧れや身近な目標になれていたら嬉しいです」。
遠藤「子どもから見て『一緒にアーチェリーをする人』に認識が変わったように、僕たちの指示や注意を前向きに捉えてくれる変化もありました」。

できたことを子ども自身が喜んでる姿を見ると『この仕事をやっていて良かった』と思います」。

それぞれの原動力

平野「初めてアメリカに行ったとき、先進的な海外の療育にとっても驚き、日本も追いつかなくてはと強く感じました」。

遠藤「車椅子の人が飛行機に乗る際、日本だと乗客全員が乗った後に乗りますが、アメリカでは他の人と同じように乗せてくれます。日本では端にあるスロープも、アメリカでは真ん中にあります。僕らが大変だと思うことが、海外では皆が同じようにできるのだと経験し、日本をもっと優しい仕組みにしていきたいと思いました」。

甲田「海外で障がいのある人は『スペシャルニーズ』と呼ばれ、『手助けがあれば何でもできる』というスタンス。日本も政策的には進みましたが、意識の面ではまだまだ海外と差があります。障がいのある子どもがもっと暮らしやすい地域にしたいですし、子どもに生きる力を身に付けてほしいという気持ちで、自分のモチベーションになっています」。

小さな変化が大きな成長

平野「大学生のとき、関東から帰省して久々にアーチェリーランドになると、最初は全然アーチェリーの形になっていなかった子が、きちんと構えができているなど、小さなことでも、子どもたちにとってはとても大きい成長だと感じました。子どもたちの成長を感じることが自分にとって喜びになります」。

甲田「人の目を見て話をすることが苦手な子が多く、僕が何度も顔を見て話すことを繰り返していると、ふと僕の目を見てあいさつしてくれるなど、少しずつできることが増え、

3人は、障がいのある子どもたちが継続的にスポーツができる仕組みにしていく思いを話してくれました。

7月13日、14日に行われた第67回全日本実業団アーチェリー大会コンパウンド部門で優勝した、平野佑樹さん、遠藤優さん、甲田宏樹さん。3人は学生時代からアーチェリーを続け、現在は「放課後等デイサービスすぽーとぷらす」に勤める先生です。すぽーとぷらすは、発達障がいや知的障がいのある子どもが、スポーツを通してルールを守ることや人への気配りなどを身に付け、社会的に自立できるよう支援しており、毎年アメリカの支援学校で最先端の療育を学び、アーチェリーや山歩き、野球、サッカーなど、さまざまなスポーツ・アウトドアを取り入れた療

電話での問い合わせが難しい人は
 ☎0829⑩1059

目の不自由な人のため
 ■音声読み上げのための「広報はつかいち」テキスト版をホームページに掲載しています。
 ■「広報はつかいち」のウェブサイト、デザイン図書、点訳本があります。問い合わせ先 社会福祉協議会 ☎0294

はつかいち人 vol.45 廿日市市で輝く人を紹介します

放課後等デイサービス すぽーとぷらす (津田)

人のうごき

前月比

総人口	117,098人	(-38)
男	56,367人	(-11)
女	60,731人	(-27)
世帯	52,209世帯	(+15)

(令和元年10月1日現在、外国人を含む)

はつかいちし安全・安心メール配信サービス

☎ 危機管理課 ☎9102

災害情報や気象情報、国民保護情報などが届きます。

登録方法

① 2次元コードを読み込むか、次のメールアドレスに空メール(件名・本文不要)を送信。

bousai.hatsukaichi-city@raidan.ktaiwork.jp

② 登録用URLを記載したメールが届くので、手順に従って登録。

※メールの通信料金は利用者負担

